

2025. 2. 12

中経 論壇

経営支援NPOクラブ
川上 博史



昨年1年間の世相の動きを振り返るとき、従来の思考の枠組みでは理解しにくい出来事を数多く見聞した方も多いのではないかと思う。その代表的な出来事が米国の大統領選挙である。米国の主要テレビ、新聞などマスコミの事前予想では、ハリス候補が有利という報道もあったが、いざ

で前代未聞の全会一致による不信任決議が可決し、辞職した齋藤元彦知事が出直し選挙に立候補し、他候補を破り再選されたのだ。

ふたを開けてみると、接戦州でトランプ氏が圧勝し、第47代大統領の座を射止めた。日本では、兵庫県知事の出直し選挙でも似たような現象を目の当たりにした。兵庫県議会

この西選挙に共通した新たな動きが、SNSの活用である。兵庫県知事選でのNHKの出口調査によると、投票する際に何を最も参考にしたかについて、「SNSや動画サイト」が30%で、「新聞」「テレビ」のそれぞれ24%を上回り、前回の投票率を14.55%も押し上げた。

この日米の選挙戦での結果を見て改めて思ったことは、既存マスメディアに対して潜在的な不信感を持っている

2025年は情報新時代元年

一部有権者は、一方の情報攪乱やネット通販で通行の従来の主力メディアの報道より、双方向で考え方や価値観、意見について交流できるSNSの方に、より親近感や信頼性を感じたのではないかとということである。日本の主要テレビ局のゴールデンタイムの視聴率は、かつて70%以上あったものが50%以下になり、新聞発行部数もこの20年間で半分近くに減少しており、テレビを見ない、新聞を読まない層が急速に増えている。

AIやICTなどの急速な技術進歩が後押しして、SNSは従来メディアをはるかに超える情報発信源としてその存在価値をますます高めることは間違いない。ただ問題は情報の真偽を使用者側が見極めなければならぬということである。2025年は、世界情勢が安定から不安定に向かいつつある中で、SNSの偽情報に振り回されず、平和な社会を築いていけるか、人類の英知が試される情報新時代元年になりそうな気がする。

世の中を揺さぶるSNSの台頭

先に述べたような選挙戦に限らず、SNSはロシア・ウクライナ戦争などで